



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株主通信

— 2020年11月 —

YBHD NEWS No.60



代表取締役社長
高田 和彦

グループの経営体制の最適化 第5次中期経営計画の目標達成

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年6月に代表取締役社長に就任いたしました高田でございます。グループの経営体制につきましては、より一層の最適化を図り、今後も役員・従業員一人ひとりの力を合わせて、横河ブリッジホールディングスグループのさらなる発展を目指して全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、ここに株主通信「YBHD NEWS」第60号をお届けいたします。

当上半期の業績は売上高、利益ともに順調に推移しており、各利益の数値は第2四半期連結累計期間として過去最高を更新いたしました。引き続き目標達成に向けて各事業別課題への取り組みを継続してまいります。

橋梁事業につきましては、新設橋梁は発注量の伸び悩みが続くと予想される中で、高速道路の高架橋など大型工事のほか、国土交通省および地方自治体案件を中心に着実に受注しており、業績も好調に推移しております。今後も大規模更新・修繕事業など保全事業へのさらなる対応強化により新設とあわせた事業の維持拡大を図ります。

および を目指してまいります。

エンジニアリング関連事業につきましては、システム建築事業は受注が伸び悩みましたが、損益管理体制強化の成果として採算は改善し増益となりました。

コロナ禍が長期化する中、国内一部案件の先送りや見直しの動きが見られますが、販路拡大やさらなるコスト縮減などに継続的に取り組んでまいります。先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の受注増加により前年同期を上回る業績となっております。

当社グループは、2019年度からの第5次中期経営計画に基づき、引き続き橋梁の新設・保全事業への対応

強化やシステム建築事業などのエンジニアリング関連事業を伸ばすことにより売上高や利益を増加させ、目標の達成を目指していきます。同時に環境・社会・ガバナンスの観点から持続可能な社会の実現に向けてさまざまな取り組みを行ってまいります。

厳しい事業環境が続きますが、グループ全社の総力をあげて株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2020年11月

新任代表取締役の略歴

代表取締役社長 **高田 和彦** (兼 株式会社横河ブリッジ 代表取締役社長執行役員)

就任日 2020年6月25日

出身地 広島県

最終学歴 1985年3月
東京大学大学院工学系研究科 修了

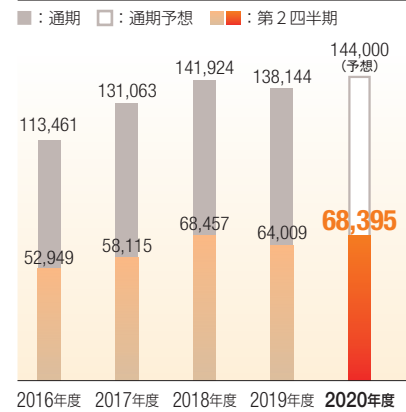
生年月日 1959年6月11日生

略歴

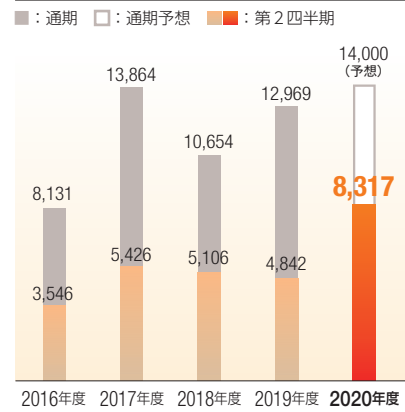
1985年4月 株式会社横河橋梁製作所
(現株式会社横河ブリッジホールディングス)入社
2005年7月 株式会社横河ブリッジ 技術本部技術研究所長
2011年6月 当社取締役 兼 株式会社横河ブリッジ 取締役
2016年6月 当社取締役 兼 株式会社横河ブリッジ 常務取締役
2018年6月 当社取締役 兼 株式会社横河ブリッジ 代表取締役社長
2020年6月 当社代表取締役社長 兼 株式会社横河ブリッジ代表取締役社長執行役員(現任)

橋梁事業、エンジニアリング関連事業、先端技術事業の各事業の受注高はいずれも前年同期を上回り、当社グループ全体の受注高は前年同期比増加。当社グループの営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の各利益の数値は第2四半期連結累計期間として過去最高を更新。第5次中期経営計画(2019年4月～2022年3月)の数値目標(営業利益140億円、1株当たり当期純利益230円)を1年前倒しで達成できる見込み。

売上高 (単位:百万円)



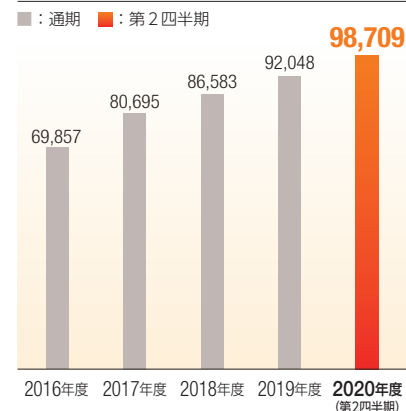
経常利益 (単位:百万円)



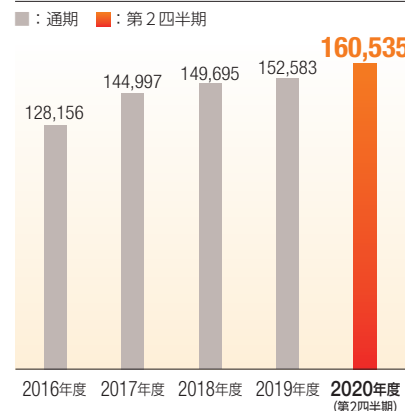
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



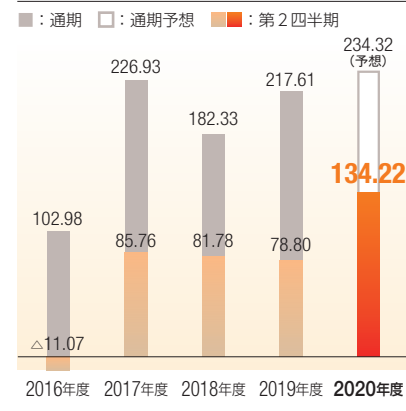
純資産 (単位:百万円)



総資産 (単位:百万円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)



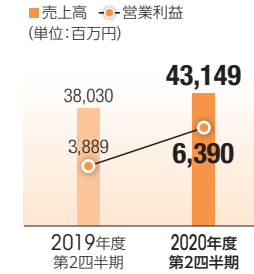
橋梁事業



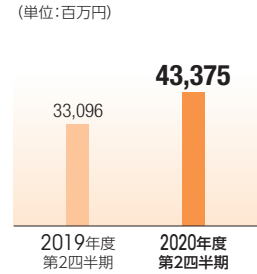
高速道路関係の大型案件などの受注により受注高は年度計画に対し約58%の達成となりました。複数の長期大型工場の設計変更の進展などにより、営業利益は上半期として過去最高となりました。

売上高構成比 63%

売上高/営業利益



受注高



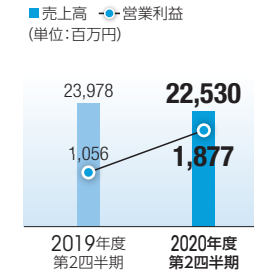
エンジニアリング関連事業



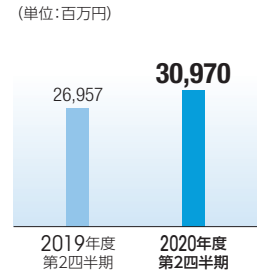
システム建築事業の受注は伸び悩みましたが、建築機鉄事業において海外大型工事を受注しました。システム建築事業の採算の改善により、営業利益は前年同期に比べ増加しました。

売上高構成比 33%

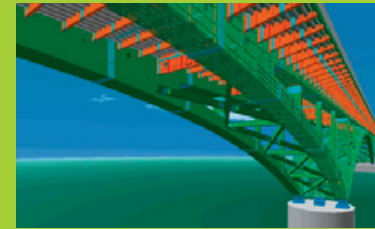
売上高/営業利益



受注高



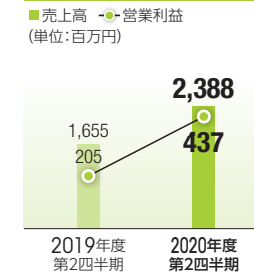
先端技術事業



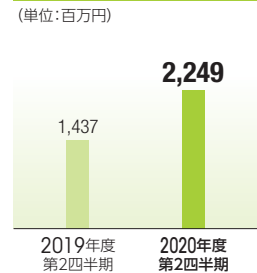
精密機器製造事業の受注の増加により売上高、営業利益はいずれも前年同期を上回りました。

売上高構成比 3%

売上高/営業利益




受注高



不動産事業

当上半期も安定的な収入と利益を確保しました。




くわはら かずや
葉原 一也 取締役 株式会社横河システム建築 代表取締役社長執行役員

略 歴

1982年 4月	当社入社	2019年 6月	株式会社横河システム建築 常務取締役
2014年 10月	横河工事株式会社 理事保全事業推進室長	2020年 4月	同社 常務取締役 ICT推進室長
2015年 10月	株式会社横河ブリッジ 理事企画室	2020年 6月	当社取締役(現任)
2017年 6月	株式会社横河技術情報 取締役監査室長 兼 総務部長		株式会社横河システム建築 代表取締役社長執行役員(現任)


就任の抱負 「客先目線」と「従業員目線」に沿った経営活動と、なんでもチャレンジできる社内体制の構築を進めるとともに、これまでに培ってきた技術と営業手法に、新たな視点で新たな技術と手法を付加して受注増を図ってまいります。また、環境に優しい当社商品が増えることで環境社会へ大きく貢献できると確信しております。



くろもと かずのり
黒本 和憲 社外取締役

略 歴

1980年 4月	株式会社小松製作所入社	2013年 4月	同社常務執行役員マイニング事業本部長 兼 ICT事業本部長
2006年 4月	同社開発本部建機エレクトロニクス事業部長	6月	同社取締役 兼 常務執行役員
2008年 4月	同社執行役員建機マーケティング本部 AHS事業本部長		マイニング事業本部長 兼 ICT事業本部長
2009年 4月	同社執行役員建機マーケティング本部 IT施工事業本部長	2016年 4月	同社取締役 兼 専務執行役員
2012年 4月	同社常務執行役員ICT事業本部長	2018年 6月	同社顧問(現任)
		2020年 4月	国立大学法人金沢大学理事(非常勤)(現任)
		2020年 6月	当社社外取締役(現任)

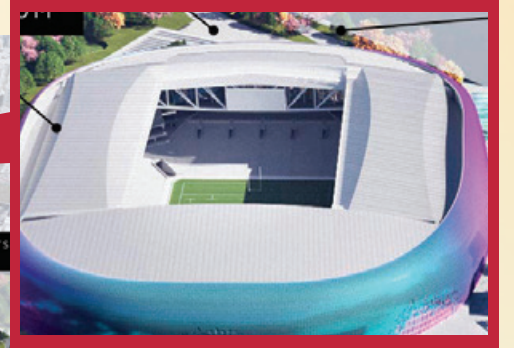


よしかわ ともぞう
吉川 智三 社外監査役

略 歴

1979年 4月	株式会社第一勧業銀行入行	2017年 7月	清和綜合建物株式会社 顧問
2007年 4月	株式会社みずほ銀行 執行役員財務企画部長	2018年 6月	株式会社コウシュウ建物 代表取締役社長 清和綜合建物株式会社 監査役
2008年 4月	同行常務執行役員	2019年 6月	東京製綱株式会社 社外監査役(現任)
2011年 6月	日本ハーデス株式会社 執行役員副社長	2020年 6月	当社社外監査役(現任)
2016年 6月	株式会社クロノス 代表取締役社長 ケイ・エス・オー株式会社 取締役		

香港 カイタックススポーツパーク 開閉屋根駆動システム工事を受注



株式会社横河システム建築は、開閉式屋根で培ってきた技術力が認められ、カイタックススポーツパーク・メインスタジアムの開閉式屋根駆動装置システム的设计から据付までを、元請けゼネコンであるHip Hing Engineeringと2020年8月に契約を締結いたしました。

カイタックススポーツパークは、香港の九龍半島北東端にかけて存在していた国際空港の跡地内に建設される多目的スポーツ施設です。香港政府がNew World Groupへの出資を通じてKai Tak Sports Park Ltd.と契約したこのスポーツパークは、5万人収容のメインスタジアムと5,000人を収容する屋外競技場、4,000人を収容する屋内競技場を備えています。

このメインスタジアムは、開閉式屋根を備えることにより、サッカーやラグビーなどのスポーツだけでなく、コンサートなどのイベントが開催可能な多目的なエンターテインメント施設として利用されます。

カイタックススポーツパークは2023年7月に竣工される予定です。竣工後にここで開催されるスポーツの国際試合や、大規模なコンサートなどの各種エンターテインメントに香港政府も大きな期待を寄せ、メディアでも大きく取り上げられると考えています。その時には、株式会社横河システム建築の技術が全世界に発信されることと思います。

土木学会田中賞 「作品部門で受賞!」

このたび当社グループの横河ブリッジと榑崎製作所が製作・施工に参画しました3工事が、令和元年度土木学会田中賞(作品部門・新設と改築)を受賞いたしましたので、ご紹介いたします。



新設 横浜港北ジャンクション高架橋

- 発注者 首都高速道路(株)神奈川建設局
- 所在地 神奈川県横浜市都筑区川向町
- 形式 5径間連続非合成細幅箱桁・少数鉸桁橋
3径間連続非合成細幅箱桁橋 他
- 全長 4,847m

改築 櫃石島高架橋(トラス部)の耐震補強

- 発注者 本州四国連絡高速道路(株)
- 所在地 香川県坂出市櫃石
- 形式 ダブルデッキワーレントラス橋
- 橋長 105m



改築 史跡鳥取城跡擬宝珠橋

- 発注者 鳥取市教育委員会事務局文化財課
- 所在地 鳥取県鳥取市
- 形式 (上部構造)木橋(8径間)
(下部構造)水中梁:2相ステンレス製水中梁(3径間)
- 橋長 35m



TANAKA AWARD

田中賞とは

土木学会田中賞は、公益社団法人土木学会より橋梁・鋼構造工学に関する優れた業績に対して、1966年(昭和41年)より毎年授与されるものです。

名称の由来は、関東大震災後の首都の復興に際し、数々の名橋を生み出され、多大な功績を残された「田中豊博士」に因んでいます。

当社グループの 新型コロナウイルス感染症予防対策

当社グループでは、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に向けた行動を、強く推し進めております。

まず、政府からの緊急事態宣言が発出される以前より、テレワークでの在宅勤務や時差出勤に取り組んでおり、解除後の今日においても柔軟な対応が可能な社内制度を確立し実施しています。

また、新しい勤務形態の活用を推進するとともに「イベント開催の中止や延期・リモート開催への切り替え」のほか、「対応可能な会食や対面でのお打合せについて、延期や中止・TV会議への切り替え」を行い、各オフィス・工事中の各現場についても予防対策の徹底を図っております。

今後も、「密閉」「密集」「密接」という3密状況の発生を避け、「新しい生活様式」を参考に対策を継続させることで、グループ全従業員の安全確保を最優先に事業を継続させ、社会資本の整備に貢献してまいります。

株主総会でもさまざまな対策で対応いたしました。



当日来場された株主の皆様には、マスクの着用、検温、手指の消毒をした上での入場にご協力いただきました。その他、受付列の間隔確保の目印設置、対応スタッフのフェイスシールド着用などの対策を行いました。

入口・ロビー



当社ビル入口に、非接触自動検温器およびアルコール消毒液を設置し、検温、手指の消毒を実施しております。また、ロビーにある待合室に、パーテーションを設置し、お客様およびグループ従業員の感染予防に努めております。

現場



事業所入口に予防対策の注意喚起を促す看板およびアルコール消毒液の設置、マスクの配布や作業前の準備運動中もマスクを着用し、間隔をあけて行うなどの対策を行っております。

オフィス内



オフィス内のデスク間にシールド、アクリル板を設置。緊急事態宣言発出前から現在も在宅勤務や時差出勤を推奨し、グループ従業員の感染予防に努めております。

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 2020年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期末 2020年9月30日現在
資産の部		
流動資産	93,891	97,605
固定資産	58,691	62,930
有形固定資産	36,877	37,936
無形固定資産	1,156	1,369
投資その他の資産	20,656	23,623
資産合計	152,583	160,535
負債の部		
流動負債	38,378	38,463
固定負債	22,156	23,362
負債合計	60,534	61,825
純資産の部		
株主資本	85,600	90,326
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,185	10,185
利益剰余金	69,592	74,319
自己株式	△ 3,612	△ 3,613
その他の包括利益累計額	3,810	5,703
非支配株主持分	2,638	2,679
純資産合計	92,048	98,709
負債純資産合計	152,583	160,535

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,611	△ 5,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,014	△ 3,730
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,348	2,332
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 9	△ 23
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,239	△ 6,742
現金及び現金同等物の期首残高	24,414	22,739
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,654	15,997

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
売上高	64,009	68,395
売上原価	55,075	55,873
売上総利益	8,934	12,522
販売費及び一般管理費	4,189	4,229
営業利益	4,745	8,292
営業外収益	258	293
営業外費用	160	268
経常利益	4,842	8,317
特別利益	94	3
特別損失	24	69
税金等調整前四半期純利益	4,912	8,251
法人税等	1,555	2,565
四半期純利益	3,356	5,685
非支配株主に帰属する四半期純利益	97	129
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,259	5,556

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧

代表取締役会長	藤井 久司
代表取締役社長	高田 和彦
常務取締役	高木 清次
常務取締役	宮本 英典
取締役	栗原 一也
取締役	小林 明
取締役	北田 幹直(社外取締役)
取締役	亀井 泰憲(社外取締役)
取締役	黒本 和憲(社外取締役)
常勤監査役	廣川 亮吾
常勤監査役	大島 輝彦
監査役	志々目 昌史(社外監査役)
監査役	八木 和則(社外監査役)
監査役	吉川 智三(社外監査役)

■ 株式の状況

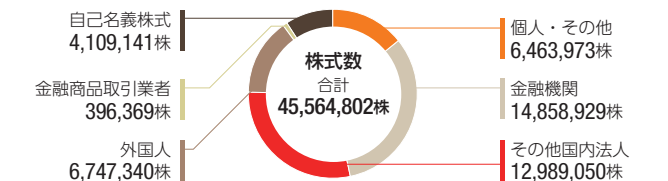
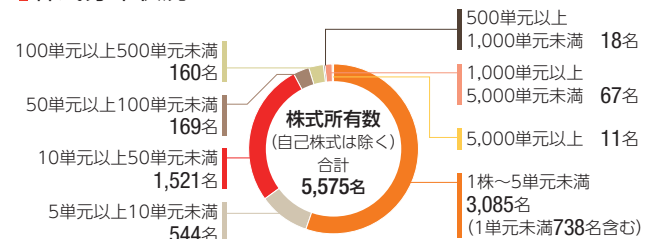
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,576名

■ 大株主(上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	4,223	10.18
(株)日本カストディ銀行(信託口)	3,696	8.91
横河電機(株)	2,234	5.39
日本製鉄(株)	1,987	4.79
(株)日本カストディ銀行(信託口9)	1,158	2.79
(株)日本カストディ銀行(信託口5)	764	1.84
住友不動産(株)	674	1.62
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	577	1.39
日本生命保険相互会社	543	1.31
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED (LONDON BRANCH) /SMITIL/JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC	536	1.29

(注) 1. 当社は、自己株式を4,109,141株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真

羽黒山神路大橋

所在地：山形県鶴岡市
鋼量：1,377 t (当社グループ施工分)
型式：鋼上路式3径間連続曲弦トラス

歴史と伝統ある出羽三山神社へと至る道路であることから「神の路」を感じながら往来してほしいという意味を込めて、羽黒山神路大橋と名付けられました。

平成を駆け抜け令和まで30年以上工事が続いた本路線は、本年11月8日に開通しました。

当社のウェブサイトもご覧ください。

<http://www.ybhd.co.jp/>

当社のホームページでは、企業情報のほか、グループ各社の事業紹介、IR情報に加え、サステナビリティなどさまざまな情報をタイムリーに発信しております。是非アクセスしてみてください。



トップページ



IRページ



サステナビリティ